

「気力・体力にあふれた子どもの育成」 ～「できた わかった もっとやってみたい」と感じる体育学習をめざして～

1 主題について

- (1) 主体的に、課題解決をしたり創意工夫したり、ポイントをつかめたりする学びのある場づくり（場の設定）について
- (2) 互いの違いやよさを認めたり相手を思いやったりする、伝え合い深め合う豊かなかかわりについて
- (3) 自己を見つめさせたり、友だちのよさに気づかせたりする学習評価と指導について

2 研究の視点について

- (1) 形成的授業評価やデータを活かした授業改善
基本的な動きを確実に身につける学習と授業の自己評価や子どもたちのふり返り（情意面の変容や感想など）を次の授業改善に生かす。
 - (2) 効果的な指導
場の設定や教具の工夫に努め、ICTの活用やゲーム的要素を取り入れるなど、子どもたちが意欲をもち、より自主的に学習に親しむことができるような指導に努める。
 - (3) 伝え合い深め合う活動の充実
振り返りカードや学習カード等の活用や活動場面でのかかわりを通して、ペア学習やグループ学習による言語活動が充実する場を意図的に設定していく。
- ☆ 身につけさせたい力や単元のゴールイメージを意識し、子ども同士のかかわりや指導者の支援など、授業改善に取り組んでいく。

3 本年度の努力事項

- (1) 研究の視点にせまる授業づくりに努め、授業研究会を行って研究を深める。
- (2) 子どもたちの体力を向上させるための運動や取り組みの充実を図る。
- (3) 各種研究会への参加を積極的に行い、研修を深める。

4 本年度の主な活動内容（予定を含む）

- (1) 5月 体育部会総会 ○平成29年度庶務・会計報告 ○平成30年度役員選出
○県小体研理事会の報告 ○スキー教室日程調整
- (2) 6月 小教研体育部会 ○水泳実技講習会（市民温水プール）
- (3) 7月 小教研市内統一研修日 ○陸上実技講習会 ○組立体操についての研修会
- (4) 8月 夏季一泊研修会参加（水明荘）
- (5) 8月 小教研体育部会
- (6) 10月 県小体研研究大会参加（日野郡根雨小） 中・四国小学校体育研究大会参加（岡山：倉敷市）
- (7) 11月 市小教研体育部会 ○授業研究会事前研及び研修会
- (8) 12月 市小教研体育部会 ○授業研究会と研究協議
○第2学年 体づくり運動遊び（用具を操作する運動遊び）授業者 酒井 勇輔 教諭（余子小学校）
単元名「あまりこサーカス団～すてきなSHOWを見せよう～」
指導助言 米子市立車尾小学校 森 郁夫 校長
- (9) 2月 平成30年度「新体力テストのまとめ」冊子刊行
- (10) 2月 体育部総会 ○スキー教室の反省、スキー用具の点検（修理・整備）
○本年度事業・研究推進の反省やまとめ、来年度の研究推進について

1, はじめに

用具を使った遊びでは、用具をつかむ、回す、転がす、跳ぶなどの動きで構成される運動遊びを通して、用具を操作する動きを身につけることができる運動遊びである。また、どのような動きや遊びができるのかを、用具の特徴を生かして考え出す面白さや喜びを感じることができることや二人組やグループで動きを合わせたり工夫したり、新しい遊びに挑戦したりして、友達との関わりや運動遊びの楽しさ・喜びを共有できることが期待される。学習の途中に、楽しい発表会（サーカスショー）をしようと伝えることで、グループ内でより内容を工夫したり、よい物を作り上げるために練習したりすることが期待される。

事前アンケートでは、用具を使った遊びが好きという児童が多かった。一方で、あまり好きではない・好きでないと回答した児童もあり、「技がなかなかできない。やったことがない。人にあまり見られたくない。」など自信のなさを感じる理由を多く挙げていた。そのため、いろいろな運動に親しみ、運動する楽しさを味わうことができることを学習過程や場の設定の基本とした。

1				2	3	4（本時）	5	学活	6	
主 な ね ら い	学習の進め方を理解しよう			・場の設定 ・エクササイズ ・前時の学習の振り返り				サーカスショーの計画を立てよう	サーカスショーを見せ合おう 振り返り	
				基本ステージ			発展ステージ			
				いろいろな用具を使った運動遊びをやってみよう			工夫したり、挑戦したりして楽しもう			
核となる学習内容	学習の進め方や用具の準備の仕方を知る			ア) ボール イ) なわとび ウ) フラフープ エ) 棒 ・わたしたちの体育の中にある「用具を使った遊び」を参考にし、指導のポイントを確認しながら運動遊びを楽しむ。			ア) ボール イ) なわとび ウ) フラフープ エ) 棒 ・ペア・グループを作って人数を変えたり、距離や道具の数を工夫したりして運動遊びを発展させながら楽しむ。			
				活動① [遊びタイム] サーキット形式を使い、4種類の用具を使って遊ぶ。 活動② [振り返り]			活動① [遊びタイム] サーキット形式を使い、4種類の用具を使って遊ぶ。 活動② [振り返り]			活動① [遊び発展タイム] もっと挑戦したい種目を選び、一つの種目の発展的な遊びを考える。 活動② [振り返り]
画	の評 価 の 計 画	知		① ②		① ②		／	②	
		思		① ②		① ②				
		学	① ②			①			①	

2, 指導の実際

(1) 単元計画

学習の流れとしては、サーキット形式を取り入れ、様々な用具に触れる時間を多く設けた。また、事前アンケートを活用し、単元を通して教え合いやサポートなどの友達との関わりが生まれるようなグループ編成を行った。さらには、用具を操作の動き以外も含めて、多様な動きの向上につながるエクササイズを、単元を通して準備運動に取り入れて、動きの基礎を身に付けることができるようにした。

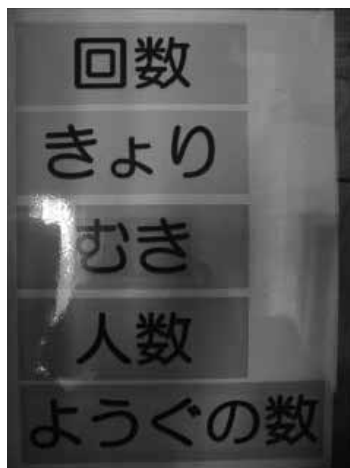
**エクササイズ**

リズム跳びや手首の回し方などのなわとびの基礎となる動きやフラフープで使えるスナップを効かせる手首の動きなどを取り入れることで、様々な用具を使った遊びがスムーズに行えるように工夫した。

(2) 指導の工夫

①工夫の視点

発展ステージでは、基本ステージで獲得した動きを使いながら、さらに工夫したり、難しい運動に挑戦したりする内容とした。学習の中で、よい工夫をしているグループを取り上げ、どんなところを工夫しているのか発表させたり、考えさせたりすることで、何をどうしたらいいのか具体的になり、工夫の視点が明確になった。自分の運動に取り入れるグループが多くいた。



② ICT 機器の活用

タブレットを活用し、自分の動きを確認したり、友達の良さや工夫を感じたりできるようにした。また、活動内で紹介できなかった遊びをふり返りの際に提示することで、みんなに見てもらえる喜びや達成感を感じることができていた。さらには、手本となる動画をタブレットに入れておいたことで、苦手な児童にとって、視覚に訴えた支援することができ、効果的であった。



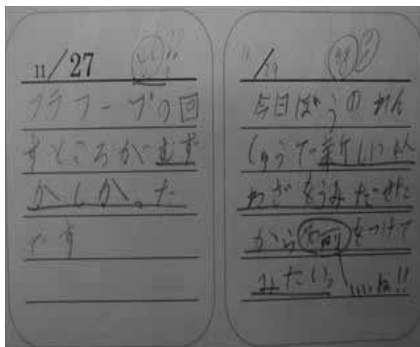
③ 学習カード

基本ステージでは、運動遊びの中で感じた気持ちや友達との関わりを中心に学習カードを活用したふり返りを行った。そこでは、毎時間の気持ちや変化が分かるように、楽しさの程度を顔の表情で表現させた。

発展ステージでは、工夫の視点を確認しながら、自分やグループでどのように考えているかを中心に記入させた。次時へ向けて高い意欲を感じるふり返りを書く児童も多かった。また、全体の場で友達への思いを伝える機会を設けたことで、友達の良さに気づいたり、上手く運動遊びができてない友達を助けたいと思ったりすることにも繋がった。教師にとっては、このふり返りを活用し、児童の情意の変容を把握することができ、次時の声かけや支援を考えるためのよい手立てとなった。



一人一人ができるようになったことや考えていることを記入



顔のイラストから情意面での変化の分かるふり返り



友達にフラフープのアドバイス
をもらえて嬉しかったです。

④関わり合いを重視した学習

普段から友達と協力したり、困っている友達に声をかけたりすることのできる子どもたちの良さを本単元でも活かしたいと考えた。そこで、運動を得意としている児童と苦手としている児童を混合グループにし、教え合いや関わり合いが増えるようにした。また、付箋を活用したことで、友達の見つけたコツを見て自分で練習する児童もいた。また、友達のために横に立って同じ動きをして見せてアドバイスをしている児童もいた。



フラフープを戻したい時には、手首を強く下に振ると良いよ。

4. 成果と課題

【成果】

- わたしたちの体育のイラストを拡大し体育館に掲示したことで、技がうまくなろうと用具操作のポイントを学習中に確認する児童が増えた。また、気づいた運動のコツをその都度付箋に書き、この拡大イラストに貼る活動を取り入れたことで、単元を通して児童が運動への理解が深まり、運動の楽しみかたの幅が広がった。
- より工夫したり、運動の力を高めたりすることを狙って、基本ステージから発展ステージとなる時に、グループの再編成を行った。この種目がしたいという気持ちで集まったグループのため、より意欲が高まり、グループで協力したり、教え合いをしたりすることが多くなった。
- 上記のような指導の工夫をしたことで、用具を使った運動遊びに対する情意面での変化が見られた。事前アンケートでは、「技がなかなかできない。やったことがない。人にあまり見られたくない。」などの理由で今回の運動遊びに対して否定的な児童が、事後のアンケートでは、いろいろな技ができるようになったから好きになった。一人ではできないけれど、みんなと一緒にするとできて楽しいなどという、肯定的な回答をしていた。



二つで回せるようになったよ。

みんなができるように練習しよう。



【課題】

- 今回指導するにあたり、なわとびを苦手とする児童により良い動きを身につけさせてやりたかったが、うまくいかなかった。限られた時間内で、どのように指導していくのか課題である。また、学習時間以外の時間も活用して、次の学年へと繋がるように検討していかなければならない。
- 本時は、思考力・判断力・表現力の観点での評価を計画していたが、この1時間ですべての児童の様子を見取るのは、非常に難しかった。児童の学習への取り組みの様子を知ることができるような学習カードなどを準備し、見取りの助けにしていける必要があると感じた。
- 学習中に、児童にどのタイミングで、どのような言葉をかけていくと効果的なのかを考える必要がある。児童の思いを大切にしながらも、ねらいに沿うような活動にしていかなければならない。